

保健師 最前線

日々勉強と模索です

精華町

みやた まい
宮田 麻衣さん



看護師として約6年間働いた後、保健師の資格を取り精華町に採用された。この春で3年目を迎える。「病院だけでなく地域や生活に根ざし、いろんな角度から病気の予防や日常の健康を支援するのがすごく大切な」と思い、悩んだすえ保健師になった。

母子保健を1年間経験した後、昨年から特定健診、特定保健指導、がん検診などを担当している。「看護師の時はドクターが主に検査データを説明します。でも特定健診などの結果相談会では、保健師が違う内容を一人ひとりに説明しなければなりません。当たり前のことですが、伝えたい内容を相手にちゃんと伝えることがいかに難しいかをあらためて知りました。まだ仕事が全然分かっていなくて」「日々勉強です」と謙虚に話してくれた。

相談を受けた時はできるだけ一人ひとりに寄り添いながら、一緒になって話し合うことを心掛けている。「歩いてくださいね」とアドバイスしても、本人さんの普段の生活がありますので、本人さんの気持ちをできるだけくみながら、できそうなことから始めていくのが大切かなと思っています。控えめな話ですが、温かさと思いやりがにじむ。押しつけにならないようにアドバイスする

方法を模索するあまり、悩むことも多いという。「要領がよいほうでないもので、一つことに時間がかかってしまうんです。それと情けない話ですが、多くの人の前でお話すると緊張してしまうんです。これをなんとか克服したいのですが」。人前ではだれでも緊張します。大丈夫！

保健師になって数多くの課題が見つかったが、うれしかったことも多いと話す。「乳幼児健診や赤ちゃん訪問で知り合ったお母さんが私の顔を覚えてくださっていて、声をかけていただいたり、乳幼児教室で赤ちゃんが突然ハイハイした時、お母さんが『ハイハイした！』といった喜び姿を目にした際は、本当にうれしかったです」と、満面の笑みで話してくれました。

「一人ひとりに寄り添い、安心して頼ってもらえる保健師になりたいのですが、まだまだ頼りなくて」。憧れは職場の先輩保健師さんだという。「職場のみなさんや地域の人たちに教えてもらいながら、まずは日々の学びを積み重ね、自分自身が人として成長していかないとだめだと思っています」。期待しています。頑張ってください。